

ようこそ 北ウェールズへ

WELCOME TO *North Wales*



JATA（日本旅行業協会）Team Europe/ヨーロッパの旅行企画のプロ達を選出した「ヨーロッパの美しい村30選・コンウィ」



「コンウィ」
中世時代のままの姿で保存されている町。
英国の中で最も保存状態の良い中世時代の遺跡です。





「コンウィ」

ヨーロッパで現存する古代城壁の中で最古のもと言われて
いる城壁で、細い石畳の路地を挟みながら広がる街と、溢
れる歴史的な建造物を取り囲んでおり、多くの見どころが
至るところに点在しています。

放射線状に広がる城壁の中心には、薄暗い石づくりの城がそびえていま
す。城は太古の昔から、長い年月を経てもなお、本物の中世の雰囲気
を残し、圧倒的な存在感で周囲を威圧、支配しているようなパワーとオー
ラは放っております。

世界遺産であるコンウィ城は、13世紀、エドワード1世が、ウェール
ズ征服のため、スノードニア周辺地域に建造した「アイアン・リング（
鋼鉄の輪）」と呼ばれる、街の周囲を取り囲む文字通り鉄壁の要塞の城
なのです。この要塞からの眺望は素晴らしく、一方にスノードニアの山
々、もう一方にはコンウィ側の河口を臨んでいます。また城からは、全
長1.2キロ以上続く石のHwylfan Centre、外壁と、22の塔に守ら
れた街全体を一望できます。



コンウィを訪れたら、まず初めに、この城壁に沿って歩いてみてください。それから、城壁内の通りに足を踏み入れて、アバコンウィ・ハウス（14世紀の商人に家屋）、プラス・マウル（イギリスで最も保存状態の良いエリザベス王朝時代の都市住宅）、世界一小さい家（この中で生活できるのでしょうか？）などを訪れてみてください。そして、歴史を辿ったしめくりに、コンウィ観光案内所に立ち寄られて、「プリンス・オブ・グヴィネス（グヴィネス王室）」の物語をひも解いてみてください。

その他、ロイヤル・カンブリアン・アカデミー・オブ・アートの美術館や、トーマス・テルフォードの歴史的建造物の吊り橋なども見逃せないスポットです。

コンウィの沿岸地域は、波止場に沿って街並みが広がっています。特に夏のリバー・フェスティバルの時期には、海を見渡す沿岸の街中が、独特の雰囲気包まれます。

街では、大変珍しい様々なお店が観光客を楽しませてくれます。輝かしい賞を受賞した、古くから続いている地元のお肉屋さんから、最新のおしゃれが取り入れられたブティックやギャラリーまで、魅力的なショップについて誘い込まれてしまいます。

<ウェールズの国旗について>

ウェールズの国旗は（ウェールズ語：
ドライグ・コッホ =赤いドラゴン）
緑と白の地に、勇ましくレッドドラ
ゴンが進む姿を表しております。
この国旗は、チューダーのカラーであ
る緑と白と共に、グヴィネズ王カド
ワラダと赤いドラゴンが一体となっ
ています。ヘンリー7世により1485年
にボスワースの戦いでこの旗が掲げら
れました。その後、セントポール大聖
堂に納められています。それ以来、チ
ューダー王朝は、彼らがウェールズの
血統をひいている証とするために、レ
ッドドラゴンをチューダー王朝の戦闘
部隊の紋章に入れたのです。
そして、1959年、その赤いドラゴン
の紋章が、ウェールズの国旗として正
式に制定されました。

<ウェールズ語（言語）>

ウェールズ語は、何世紀にもわたり日
々の生活で話されてきた生きた言語で
す。ウェールズを訪れた時に、よく聞
こえてくるフレーズをご紹介します。

Bore da (ボアダ) :
おはようございます
Dydd (ダザ) :
良い一日を
Prynhawn (プリンハウン) :
こんにちは
Hwyl (フウイル) :
さよなら
Diolch (ディオフ) :
ありがとう
Diolch yn fawr iawn (ディオフ・ヤ
ン・パウル) :
どうもありがとう。
Croeso (クロイソ) :
ようこそ





<セレブレーションその1！>

3月1日は、ウェールズの守護聖人セント・デイヴィッドを祝福するセント・デイヴィッドデーです。ウェールズの町中で、賑やかな音楽を奏でるミュージシャンやバンドと、伝統的なウェールズの民族衣装を身にまとったカラフルな人々たちが溢れるパレードで盛り上がりがあります。ウェールズ国民をあげての祝日です。

<セレブレーションその2！>

ウェールズの聖・バレンタインデーにあたる日は、1月25日です。ウェールズの愛を運んでくれる聖者は、聖（セント）・ドウェインウェン・デー。1月25日は、セント・ドウェインウェン・デーをウェールズでお祝いしましょう！

<セレブレーションその3！>

ウェールズの農民たち、食品や飲料の生産者たち、各地域のクラフト（手工芸）職人たち、そして地方のビジネスマンたちが一同となって集まり、各地域（カントリー）での労働を祝うカントリー・ショー（祭典）を催します。デンビーやフリント、アングルシー地方の祭りは、ウェールズの中でも最も大きな祭典と言われております。

<セレブレーションその3！>

各地域の地元のフードやドリとともに大勢の人々で賑わう華やかなフードフェスティバルで楽しみましょう。モールド・フード・フェスティバル、コンウィのお祭りやスランゴスレンの手籠（バスケット）祭りは、毎年大勢の食いしん坊やウェールズのフード愛好家で溢れます。



<ウェールズのコーラス>

ウェールズの合唱（コーラス）は、音楽と深くつながっています。歌うことはウェールズのナショナル・アイデンティティの重要部分であり、ウェールズは伝統的に「歌の国」と呼ばれてきました。[1]

ウェールズの音楽は、男声合唱団と密接なつながりがあり、男声合唱の分野では世界中で広くその名声を享受してまいりました。この合唱の伝統は、スポーツイベントを通して、特に国技のラグビーを通して表現されてきました。1905年、国際対抗の試合開催において初めて、ウェールズの国家「Hen Wlad Fy Nhadau（ヘン・ウラド・ヴァン・ハダイ/Land of my Father）」が斉唱されました。



<ウェールズの農産物>

農業は、何世紀にもわたってウェールズの「中核」の一部でした。

多くの世代の古い伝統と技術は、ウェールズの田舎に今日もなお活き活きと生き続けています。

この素晴らしい伝統や技術が、ウェルシュ・ラムやビーフから莫大な種類のウェールズのチーズの数々まで、レストランでの美味しい食事を生み出す偉大なウェールズの産物の源なのです。





<ウェルシュ・ゴールド（ウェールズの金）>

その起源と希少性から、大変高い価値を持つと評価されているウェルシュ・ゴールドは、北ウェールズの大自然の中から採掘されました。主要な金鉱はバーマウスから延び、ドルゲサイを超えて、さらにスノードニアの上方までつなっております。

ウェルシュ・ゴールドは、いくつかの金鉱で採掘されました。最大のものはガンサイド近くグウィンヴァニッツ金鉱、そして、ポントズィ近くのクロガイ金鉱でした。1947年11月20日、エディンバラ公とご成婚のエリザベス女王陛下の結婚指輪は、クロガイ・セントデイヴィッド鉱山の純粋なウェルシュ・ゴールドから金を採取して念入りに技巧されたものです。

エリザベス女王だけでなく、他のロイヤルファミリーも、ウェルシュ・ゴールドの結婚指輪を作りました。アン王女（1973）、ダイアナ妃（1981年）、チャールズ皇太子（1981 & 2005）、カミラ皇太子妃（2005）と続きました。

イギリス王室の結婚指輪にウェルシュ・ゴールドを使う伝統は、88年も続いているのです。最も最近の2011年4月29日のロイヤルウェディング（The Duke and Duchess of Cambridge）でも、キャサリン妃が、純粋なウェルシュ・ゴールドから結婚指輪を作るよう命じています。

<ラグビー>

サッカーと並ぶウェールズの国技は、
勿論ラグビーです。

ウェールズ・ナショナル・ラグビーユニ
オンズのチーム（ウェールズ代表）は
インターナショナル・ラグビー協会の
国際対抗戦では、ウェールズ代表とし
て出場します。

ウェールズ代表チームは、イギリス、
フランス、アイルランド、イタリア、
スコットランドのでのシックスネーシ
ヨンスチャンピオンシップで、毎年戦
っています。また4年ごとに開催される
ラグビーワールドカップにも出場して
います。

2019年にはいよいよ日本がホスト国と
なり、日本においてラグビーワールド
カップが開催、皆さんのすぐ目の前え
激戦が繰り広げられることでしょう。





<スレート>

ウェールズのスレート産業の存在はローマ時代までさかのぼり証明されています。スレート産業は、19世紀後半まで急速に拡大し、その後18世紀初頭まで、ゆっくりと成長しました。最も重要なスレート産地はベセスダ近郊のペンリン採石場、スランベリス近くのDinorwig場、Nantlle Valley（ナントル・ヴァレイ）採石場、そして、採石されたというよりも、採掘場であったといわれるBleanau Ffestiniog（ブレナイ・フェスティニオグ）などがあります。

Penrhyn（ペンリン）とDinorwig（ディノウィグ）は世界の二大スレート採石場でした。そしてBlaenau Ffestiniog（ブレナイ・フェスティニオグ）にあるオークリー鉱山は世界最大のスレート鉱山でした。

スレートは屋根に主に使用されますがフローリング、調理台や墓石など、さまざまな用途のための厚板として生成されます。

スレート産業は、19世紀の後半北ウェールズの経済を支配していましたが他の場所においては、はるかに小さい規模の産業でした。1898年、第一次世界大戦の時代には、スレート業界で活躍する男性労働者が減少しました。また大恐慌と第二次世界大戦では、小さな採石場の多くが閉鎖され、他の代替の屋根材量、特にタイルとの

競争につながりました。1960年代と1970年代には、ほとんどの大きな採石場も閉鎖され、スレートの生産は大幅に減少された小規模産業のまま継続されております。

現在、北ウェールズのスレート産業は試験的に世界遺産リストに登録されています。

17000人の労働者が、スレート500万トンを生産しました。

<北ウェールズのリトル・トレイン達（小列車）>

北ウェールズのリトル・トレイン（小列車）はイギリス諸島の中でも最高の景色を満喫できる特別で格別な旅の手段です。すべて軌道の狭いレールの蒸気鉄道であり、そのうちのいくつかの列車は、100年以上もさかのぼる歴史があります。どの列車も洗練された塗装と真鍮で、昔の蒸気機関車の魅力が溢れています。

私たちの時代のような忙しさがなかった時代に、採石場から海岸まで、ウェルシュ・スレートを運搬するために列車は運行されていました。そのころと現代の列車は同じではないけれども、列車で揺られてみれば、過ぎ去った古き良き時代の思い出が蘇るような、特別な慕情の旅を体験できるのです。

「プリンス・オブ・グヴィネスズ」

「プリンス・オブ・グヴィネスズ」の歴史紹介のプロジェクトを通し、ウェールズの文化と遺産が蘇りました。

グヴィネスズ王家のプリンスは、ウェールズのロイヤルファミリーであり、歴史上、権力を持つ中世王朝の戦士であり、政治家であり、さらに芸術振興の後援者でした。



コンウィ城と城壁： ユネスコ世界遺産

コンウィ城は、ほの暗く威圧的な雰囲気を漂わせています。これは、エドワード1世が、「支配」と「威圧」を目的としてこの城を建造したからかもしれません。現在でもその目的は果たされているようです。スノードニアの起伏に富んだ険しい山脈が空に描く輪郭と、荘厳で圧倒するような城壁が、お互いに張り合うようにそびえ立つ姿は、来訪者を驚かせます。

ウェールズで、このコンウィ城ほど中世の雰囲気を鮮明に残している城はありません。城塞の塔の頂上に登りつめれば、この城が他の城と明らかに異なることを理解できます。塔は仄暗く、堅固な岩の上に建てましたが、あたかも岩から自然に塔が姿を現したかのように見えます。全部で8つの塔からなり、どの塔からもコンウィ川の河口全体や、巨大要塞のふもとで城壁に囲まれ、はるかかなたの地上のおもちゃのように見えるコンウィの街並みなど、壮大で、息を飲むような素晴らしい風景を見渡すことができます。要塞の内部をじっくり見るのも、興味深い探検です。屋根がないことを除けば、大部分が、大昔のままの完全な状態で残されています。特に、40メートルもの壮大なグレート・ホールと、キングス・アパートメントの部分は、ほぼ手つかずの状態で見守られています。コンウィのもう一つの見どころは、細い路地に張り巡らされた最古の街並みを取り囲む、長さ1.2キロメートルにも及ぶ円形の城壁です。他では見られない歴史的な景観といえるでしょう。合計21以上もの塔の数々と3つの門に守られたコンウィの街は、コンウィ城と同様、ヨーロッパ随一の存在感を誇る唯一無二の遺跡といえるでしょう。



カナーヴォン

北ウェールズ・グヴィネズの中心で、ユネスコの世界遺産に登録されているウェールズで最も有名な古城のある街です。

巨大なカナーヴォン城は、多くの来訪者の注目を集める存在ではありますが、細い路地や、再開発されたウォーターフロントもおしゃれなスポットでなり、訪れる価値があります。

カナーヴォン城は、13世紀にエドワード1世により、王宮として、また軍事要塞として建造され、中世における城郭都市の中心として栄えました。古代ローマ人たちの痕跡も多く残されており

ます。街の丘の上には、1000年以上も前にローマ人によって造られたゴンティウムの砦の礎が残っています。

Ein Treftdaeth(「私たちの遺産」プロジェクト)の1部として、この街の歴史がOriol Pendeitshに展示されています。

その他にも、ポーツマドックまで40km運行されているウェールズ高速鉄道や、ザ・ファン (FUN) ・センター (Hwylyfan Centre)、雨天でも楽しめるレッドライン・インドア・カーティング (最高速度限界ぎりぎり室内ゴカート競走) 施設、Lon Eifionの大自然の中最高の眺望を楽しみながら走行できるレクリエーション用自転車ロード、そしてメナイ海峡沿いでオープンエアの8人乗りスペシャルボートでの海洋・自然・野生探検アドベンチャーのRib Ride (リブ・ライド) など、美しい手つかずの自然の中で楽しむアトラクションの数々、見どころ満載です。





<ウェールズの世界遺産>

<Pontcysyllte>

1805年に、建築家トーマス・テルフォードとウィリアム・ジェソップは、ウェールズ語 - 英語の国境に、ディー川にかかる高さ100フィート（30メートル）以上、19本の柱で支えられたPontcysyllteの鑄鉄の水道橋を築きました。建設後 200年以上経てから、この広大なランドマークは世界遺産に選ばれました。

<ビューマリス城>

1295年に生まれたビューマリス城は、ウェールズのキングエドワード一世によって築かれた最後の城でそして最大の城でした。手つかずの全くの新天地に、建築デザイナーの天才的な独創的な創造性をはばむ足かせがない状態で築かれた城です。おそらく英国において中世の軍事建築の中で、最も洗練された建築物といえるでしょう。構造的に、究極のほぼ幾何学的対称になっており、究極の「同心円」の城郭となっています。

<ハーレック城>

ハーレック城は、それが岩から自然に成長してそそり立っているように見えます。まるで全てを見渡している番人のように、スノードニアのかなたまで監視しながら、陸と海全体をじっと見つめて佇んでいるのです。

英国君主エドワード一世は、この警護の目的を果たすために13世紀後半ハーレックを築城しました。

山の隠れ場所に潜むウェールズ人からの攻撃を阻止するために設計されたこの「鉄のリング」の最強の要塞一つでした。しかし、皮肉なことにこの城は1404年ウェールズのリーダーOwen Glyn Dwr（オウエン・グリン・デュー）により占拠され、ウェールズ議会がここで開催する流れとなったのです。バラ戦争の間の長期間にわたるここでの包囲攻撃が、世間を騒がすことになった「ハーレックの男たち」に影響したとされています。





スモーレスト・ハウス・イン・グレート・ブリテン（グレート・ブリテン島の小さい家）

波止場にあるグレート・ブリテン島のスモーレスト・ハウスは、幅わずか183センチメートル、高さは310センチメートルです。

1900年5月まで、実際に住居として使用されていましたが、その後は観光地として世界中から何千人もの観光客が訪れ、その小ささで人々を驚かせています。この家に最後に住んでいた人はロバート・ジョーンズ氏という地元の漁師で、身長は191センチメートルでした。ジョーンズ氏の前にはお年寄りの夫婦が住んでいました。この家は確かに小さいですが、シングルベッドが置ける部屋と、暖炉と石炭庫があり、とても実用的です。



＜ウェールズのフードとドリンク＞

ポドナント・ウェルシュ・フードセンターで、本物のウェールズの味を見つけてください。

＜ウェルシュ・ラム（ウェールズのラム）＞

ウェルシュ・ラム（ウェールズの子羊肉）は世界中に、その美味しさと高い品質で知られています。ウェールズの子羊達の特別な育てられ方が、世界中のどの子羊もかなわない品質を生んでいるのです。

＜ウェルシュ・ケーキ＞

ウェルシュ・ケーキは、19世紀後半からずっと親しまれてきたウェールズのお菓子です。伝統として、ペーク・ストーンと呼ばれる平たい鉄板を使って焼かれてきたので、ウェールズではbakestones（ペーベイク・ストーンズ）とも呼ばれています。

＜バラ・ブリス＞

Speckled Bred(スペクルド・ブレット/まだらパン)」とも知られている「Bara Brith (バラ・ブリス)」は、酵母で焼かれた、またはふくらし粉で作られたドライフルーツがたっぷり詰まった濃厚なパンのようなケーキのよう

な菓子です。伝統的に、紅茶、ドライフルーツ、色々なスパイスで風味づけそしてスライスし、ティータイムにバターを添えていただきます。

＜ウェルシュ・チーズ（ウェールズ産チーズ） — アバウェン＞

昔ながらの製法でじっくり熟成されたチーズには、どんなチーズも太刀打ちできない独特な味わいがあります。ポドナント・アバウェンのチーズは、その地域の太古の昔から続く丘陵地帯と同じくらい古い歴史を持ち、18世紀のレシピを蘇らせて昔の製法のままで生産されております。

＜ウェルシュ・レアビット＞

この料理は、18世紀のイギリス料理から生まれました。独特で多彩な調理法で親しまれてきたお料理です。チーズと香ばしいスパイスを混ぜ込んだ風味たっぷりの熱々のとろとろチーズソースを色々なお料理にかけて豪華な食卓に、また、トーストやパンのスライスの上にとろりと溶けたチーズソースをかけてカジュアルにチーズトーストのように、そしてパンと一緒に、チーズフォンデュのようなコンロ付卓上鍋を囲んだ特別なお料理も楽しめます。





<ラバ・ブレッド>

ウェールズ語で「ラバ・ブレッド」と呼ばれている料理、歴史的価値のある重要な伝統的な料理です。海藻から作られた、ウェールズを代表とする珍味で、いったん洗われてから、柔らかい緑がかった黒のペーストに調理されます。海藻の中で最も栄養価の高い岩海苔から作られたラバ・ブレッドは、健康促進に効果の高い隠れたたくさんの利点があります。豊富なミネラルやビタミン、多くのタンパク質が含まれているのに低カロリー。まさにスーパーフードなのです。ビタミンB12は鉄分やヨウ素も含む貴重な植物原料です。

<コンウィ産・ムール貝>

200年もの間、伝統的な簡素な方法でムール貝漁が行われてきました。ウェールズのムール貝の漁師は、いまでも小さな木製の小舟から野生のムール貝を小さな熊手を使って掻き上げる漁を続けていますが、実際に3世代にわたって受け継がれてきた漁の手法なのです。

<ウェルシュ・カウル（ウェールズのシチュー）>

カウルは、伝統的なウェールズの煮込み料理です。その土地土地で、多種多様な調理方法があります。例えば内陸地や高い丘の地域の場合は子羊やマトンを煮込んだこってりとしたカウルを、海岸地域では、シーフードを使ったさっぱりしたカウルを楽しめます。

<ウェールズのビール>

ウェールズは近年、数々の主要なブルワリーの復興時代を享受してきました。ウェールズで新しく生まれた多くのブルワリーは、地元食材や香味や薬味がふんだんに使われた莫大な種類のエールやサイダーの生産に活気づいております。

<スノードニア・ジン>

2015年、コンウィ・ヴァレー（コンウィ渓谷）の職人の醸造所から、美しい魂とともに、スノードニア・フォレジャー・ジンが誕生しました。小さな窯で手作りで作られた高い品質のジンは、まさに純正で高潔なスノードニアそのものなのです。



近隣の象徴的な観光地



スランディデュノ



ポドナント・ガーデン



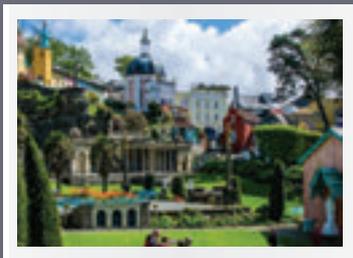
ベトウイス・ア・コエド



スランベリス



アングルシー



ポートメリオン



スノードン



ウェールズの世界遺産



<ゴルフ>

北ウェールズは60以上のコースがあり、その多くに歴史が深く刻まれています。イングランドとウェールズ地方で最高峰スノードンで、オープニングのティショットをイメージされてみてください。

Llanymynech (サンマネッヒ) でプレーをすると、ウェールズで15ホールイングランドで3ホールを楽しむのはもちろんのこと、ゴルフ場を散策しながら絶景を堪能することもできます。

北ウェールズのゴルフ場のグリーンフィーで、ヨーロッパで最高の付加価値を享受できると言われてしています。

プレーヤーをそれほど惹きつけるのはどんな魅力なのでしょう。一つには絞りきれません。ゴルフ場のクオリティにおいては、プレーヤーをがっかりさせることは決まてないでしょう。

北ウェールズのゴルフ場は、アメリカのPebble Beachのゴルフ場とよく比較されてきました。ロイヤル・セント・デイヴィッド、Aberdoverly(アバルダヴィ)、コンウィ、そしてNefyn & District Golf Club(ネヴィン&ディストリクトゴルフクラブ)などのワールドチャンピオンシップリンクスコースの本場であり、北ウェールズはゴルフの聖地とも言えるでしょう。

この地には、あなたが望んでいたような隠れた秀逸なゴルフ場がきっと見つかります。

ゴルフプレーヤーの価値観がどのようなものであっても、ぴったりのコースを見つけたり、北ウェールズを満喫できることでしょう。

<スランディデュノ>

スランディデュノは、ヴィクトリア朝時代から続く海沿いの遊歩道と、棧橋が、この街の美しさを際立てています。

北部の高台のグレイト・オームには、先史時代の青銅器の鉢山が発見されたのは驚くべき史実です。

スランディデュノは、完璧とも言える見事な美しさを誇り、「新しいタイプの海辺のリゾート地」として、19世紀に造られた街のひとつであり、21世紀の今でもその当時の美しさのまま現存しています。

多くのイギリスのリゾート地が衰退していく中、スランディデュノは、ヴィクトリア朝のルーツを誇る自信とともにこだわり続ける街の強い意志のもとに、時を経てますますその魅力を増しているのです。

ヴィクトリアの愛好家にとって、その街で過ごす時間は至福のひと時です。ここには、あらゆる古典建築様式が集結されています。高い切妻屋根の建物、エレガントな大きな出窓、装飾された味わい深い鉄製品、細部まで飾れた漆喰や、そして素敵な雰囲気溢れるアーケードのショッピングストリートがあります。近代の開発が、本来のヴィクトリア時代の魅力を邪魔することなく、見事な統一性と調和を保ち、街中が独特でおしゃれな雰囲気包まれております。

「パンチとジューディ」は今も、まだこの街で上演されています。そして砂浜では口バに乗ることもできます。

また全長670メートルの、ウェールズで最も長く、古いのになぜか洗練されて新しく見える美しい棧橋のプロムナードがあるけば、はるか沖まで不思議な気分海の上のウォーキングを楽しむことができます。





ボドナント・ガーデン

ボドナント・ガーデンはイギリスで最も美しい庭園のひとつで、80エーカーほどの敷地に広がっています。コンウィ川上流の西側に傾斜した、スノーディア山脈に向かって谷を見渡せる土地に位置します。

ガーデンは大きく2つの部分に分かれています。上側の庭園はボドナント・ホール周辺にあり、ひな壇式庭園と木々に覆われた素朴な芝生が広がります。下側は小さい谷を意味する「デル」として知られており、ヒレスリン川の谷沿いの野生植物の庭を楽しめます。

ベトウイス・ア・コエド

スノードニアの入り口にある、にぎやかな山岳・森林リゾート地です。活気ある店が立ち並び、アウトドア用品から手工芸品まで、あらゆるものが入手でき、観光客達を魅了します。ベトウイス・ア・コエドの街は、初期ビクトリア時代の旅人達により開かれ、誕生しました。豊かで澄んだ4本の溪流が会うこの美しい森の環境に旅人達は癒され、楽しみました。この地域には、当時の姿がほぼ変わらずそのまま残されているので、ここを訪れる人々の心をいつも魅了し、深く惹きつけてきたのです。

また、本格的で徹底された山岳リゾート地でもあり、色々な種類のアトラクションやアクティビティが楽しめます。鉄道博物館や、ツリー・トップ・アドベンチャーセンターで遊びましょう。また少し森深く入れば、グウィディル・フォレストの木々の中で、ウォーキングや乗馬、マウンテンバイクも楽しむことができます。その他、キャニオニングやスクランプリングなどのアウトドアアクティビティも体験できます。近くに作られた「ゴー・ピロウ（地底鉱山探検）」では、地底でアドレナリンが湧き出てくるようなスリルも味わえます。





<スノードン>

スノードンは、海拔1085メートル（3560フィート）の英国の最高峰の山です。スコットランドのハイランド地方以外でのイギリス諸島で最も高い地点に存在します。

スノードンは北ウェールズのスノードニア国立公園に位置しており、おそらく英国内で最も賑やかな？山ともいえるかもしれません。その希少な動植物を守るために、国家自然保護区に指定されています。

エベレスト最初の登頂を果たした登山家のエドモンド・ヒラリーとシェルパのテンジンは、スノードニアの斜面で冬季訓練をし、登山技術を磨いていたと言われています。

スノードニアの頂上は、長い間、観光客や画家、自然愛好家達、そしてもちろん、本格的な登山家を魅了してきました。スノードニア国立公園中心部の地帯は、登山家達にとって最高の価値のあるエリアです。切り立った岩面、危険ながれ場（風化のため崩壊して山腹やがけ下にたまった岩屑（がんせつ）地帯）と油断のならないトラバースは、英国の中でも最難関地帯と言われています。

登山界エドモンド・ヒラリーと彼の仲間は、スノードンの近くでの登山小屋冬の間の週末を過ごしました。彼らは酸素機器やフェイスマスクを試し、救助練習や安全のためのルーティンを繰り返し、世界最高峰の山から受ける危険対策のために、登山ルートと戦略を計画しました。

スランベリス

スランベリスは、旅行者が数週間かけても楽しみきれないほどのたくさんの魅力が溢れるスポットです。

まずスノードン山のふもとの湖畔がお勧めです。湖の水辺を歩くことに飽きたら（おそらく飽きることはないほど変化に富むウォーキングスポットです）、スランベリス湖畔鉄道と、スノードン登山鉄道という2つの狭軌鉄道に乗られてみてください。スノードン登山鉄道は、Hafod Eryriビジターセンターのすぐ前まで登りぎります。湖畔にあるバダーン・カントリーパークでは見どころだけでなく、遊びを楽しむスポットを楽しむことができます。

国立スレート博物館では、スノードニアの豊かな産業遺産を目にすることができます。クォリー・ホスピタルでは新しい展示物を見学しながらその歴史に触れながら、地元において病院が果たした役割を学ぶことができます。

エレクトリック・マウンテンを訪れてみると、先端技術が集結された地下の世界に驚くことでしょう。ドルバダーン城では、数千年前にウェールズで誕生したプリンスの時代を回想できます。さらに、手工芸品のショップや、ウォータースポーツ、そしてアウトドアファンの多くは、ウォーキングを目的でこの地を訪れます。





<アングルシー>

アングルシーでは、数えきれない楽しみにあふれています。目で見て、耳で聞き、口で味わい、鼻で匂いを感じ、すべての感覚を刺激し、訴えかける場所です。そこはすべての日常から逃れるための場所です。それでいて、アングルシーでは、自然に飛び出して体験するための場所でもあるのです。

橋を渡ったその瞬間から、風景画のように美しい町や村々、見事な景観と自然のままの海岸線が、探求心あふれる旅人の訪れをいまかと待ちわびています。

最高の品質を誇る水を楽しむウォーターアクティビティとともに、コースタルパス（海岸線遊歩道：ウェールズの周囲の海岸・沿岸線を途中で止まらずにウォーキングを楽しむために作られた歩道）と、サイクルパス（サイクリングで周遊できる自転車用のロード）が、何マイルも続く景観とともにあなたを待っています。

島々には、豊かな文化遺産や素晴らしい庭園、そして珍しい「月面の風景」とよばれる眺望まで、わくわくするような発見の数々が満ち溢れています。

海岸線の多くは、特別自然美観地域（AONB）に認定されています。そして降り注ぐ雨にも、太陽にも、アングルシーにある様々な素晴らしいビーチは光り輝き、そこを訪れる誰にも、特別な何かを与えてくれることでしょう。

<ポートメリオン>

ポートメリオンは北ウェールズのグウィネスの観光スポットです。1925年から1975年の長い年月をかけて、イタリアの村をイメージしてサークラフウィリアムズ・エリスによって作られ、現在は、慈善団体の所有になっております。そのイタリア村は、ポースマドッグの美しい町の南東に位置してあります。

ポートメリオンは、多くの映画やテレビ番組の撮影場所として、1960年代の「The Village (ザ・ヴィレッジ)」や、「The Prisoner(ザ・プリズナー)」などでも紹介され人気のスポットとなりました。





キャッスル・ホテル

ビジット・ウェールズから名誉あるゴールド・アワードを受賞し、Visit Wales and the AAで4つ星を付けたブティックスタイルのタウンハウスホテルです。

コンウィ市街の中心に位置し、波止場や古城からも近い場所にあります。キャッスル・ホテルは古いコーチングインで、シトー修道院の敷地内に建っています。

キャッスル・ホテルは、食事とお客様へのサービスでも有名です。リアルエール（ビール）を注文できるモダンバーや、受賞歴もあるAA口ゼット2つ星の「ドーズンズ・レストラン」、そして料理はすべて地元ウェールズで調達した見事な食材を使用しています。

「ヘルピング・ハンズ」のスパ・セラピートリートメントルームを利用できます。

無料Wi-Fiと駐車場を完備しています。16世紀に建てられたホテルで、客室数は28部屋です。

Club、Premier、Deluxe、Historical Four Posterの部屋には16世紀式のベッドが備えられ、Deluxe Suiteにはプライベートラウンジと二人用のジャグジーも完備されています。



<アドベンチャー（冒険）>

北ウェールズは、訪れる人が、日々の生活から解放され、のんびりリラックスできる美しい田園地帯、そして目をみはるような美しいビーチの数々で知られています。しかしその一方では、ヨーロッパの中でも、最高に素晴らしくまた爽快な冒険アトラクションの数々がぎっしり詰め込まれているエリアでもあるのです。

<サーフ・スノードニア>

東京2020オリンピックで、サーフィンの競技が行われることになるようになったのは、サーフ・スノードニアが影響したのでしょうか？

緑豊かなコンウィ渓谷に作られた完全な菱形の淡水ラグーン、サッカー場の6ピッチに該当広さ。新鮮で、野性的でそして美しい、その大気の中で深呼吸してみてください。

今、全く予想しえなかった新しい施設がここに生まれました。ラグーンの中央に、頭上を越える高さの荒々しく力強い高波が、150メートル以上にわたって飛沫をあげたままそそり立ち続き、そして海岸にぶつかり波が静かに消えていくのです。

サーフスノードニア・アドベンチャー・パークへようこそ！

世界発の、革新的な、インランド（内陸の）・サーフ・ラグーンであり、いま英国でもっとも注目されているアウトドア・アドベンチャーです。

あなたご自身も、お友達といっしょに





そしてご家族で楽しめる観光スポットです。

<バウンス・ピロウ（地底トランポリンワールド）>

美しくまた歴史的に名高い地域で、ユニークで独創的な冒険の世界をご提供します。その昔はビクトリア時代の鉱山に家から労働に通った時代もありましたが、今は、美しくまた歴史的に名高いスポット、唯一無二の独創的なアドベンチャーを、自然のままの地底鍾乳洞の洞窟の中で楽しむ時代になりました。息をのむようなそのアドベンチャーワールドは、北ウェールズのBlaenau Ffestiniog(ブラナイ・フェスティニオグ)の旧スレート鉱山にあります。

大聖堂の規模の巨大な地底洞窟の中であなた自身、トランポリンのネットからネットへ、スライディングして、そしてローリングして、ジャンプやバウンドを、何度も何度も繰り返しトライすれば、きっと爽快な気分になれるでしょう。

<ジップ・ワールド・ベロシティ>

ベセスタにあるジップ・ワールド・ベロシティは、世界最速・ヨーロッパで最長のジップラインです。

<スノードニア国立公園>

様々な景観で覆われた英国の西海岸の1324平方キロメートルに位置する、スノードニア国立公園は、26000人以上の人々が、家をもち、そこで働き

暮らしているエリアでもあります。ウェールズの中でもっとも大きな国立公園であると同時に、スノードニアはイングランドとウェールズの最高峰の山とウェールズで最も広い湖を誇り、そしてまるで絵画の中の世界のように美しいペトウィス・ア・コエド、ベスゲレートのような村々も貴重な財産となっています。スノードニアは文化的にも歴史的にも深みのある地域であり、そこに住む半数の人々が、ウェールズ語を話していると言われています。スノードニアは毎年、見事な大自然の風景と、観光の目玉となっている豊富なアウトドアのアクティビティの数々で多くのツーリストを魅了しています。国立公園当局の目的は、自然の美しさと、野性の動植物、その地域の文化遺産を保護し価値を高めることであり、それらの特別な資質を理解しながら享受する機会を推進、地域社会の経済と幸福を大切に育成することです。



The production of this brochure was supported by the generous contribution of the North Wales Business Council, the umbrella body for the Private Sector in North Wales.